

震災によるマンションの被害状況

東京カンテイ調査結果をマンション管理新聞（2012 年 5 月 15 日号）が掲載。
それを元に以下のとおり、表及びグラフにまとめた。

被害無	今回の調査において特に被害が認められなかったもの
軽微	柱・耐力壁・2次壁の損傷が、軽微かもしくは殆ど損傷がないもの。仕上げの補修のみで外観を復旧できる程度
小破	柱・耐力壁の損傷は軽微であるが、RC 2次壁・階段室の周りにせん断ひび割れが見られるもの。相当な補修が必要となる
中破	柱に典型的なせん断ひび割れ・曲げひび割れが生じて耐力に著しい低下が認められるもの。大規模な補強・補修を要する
大破	柱のせん断ひび割れ・曲げひび割れによって鉄筋が座屈し、耐力壁に大きなせん断ひび割れが生じて耐力に著しい低下が認められるもの。建替が必要となってくる
倒壊	柱耐力壁が大破壊し、建物全体あるいは一部が崩壊に到ったもの

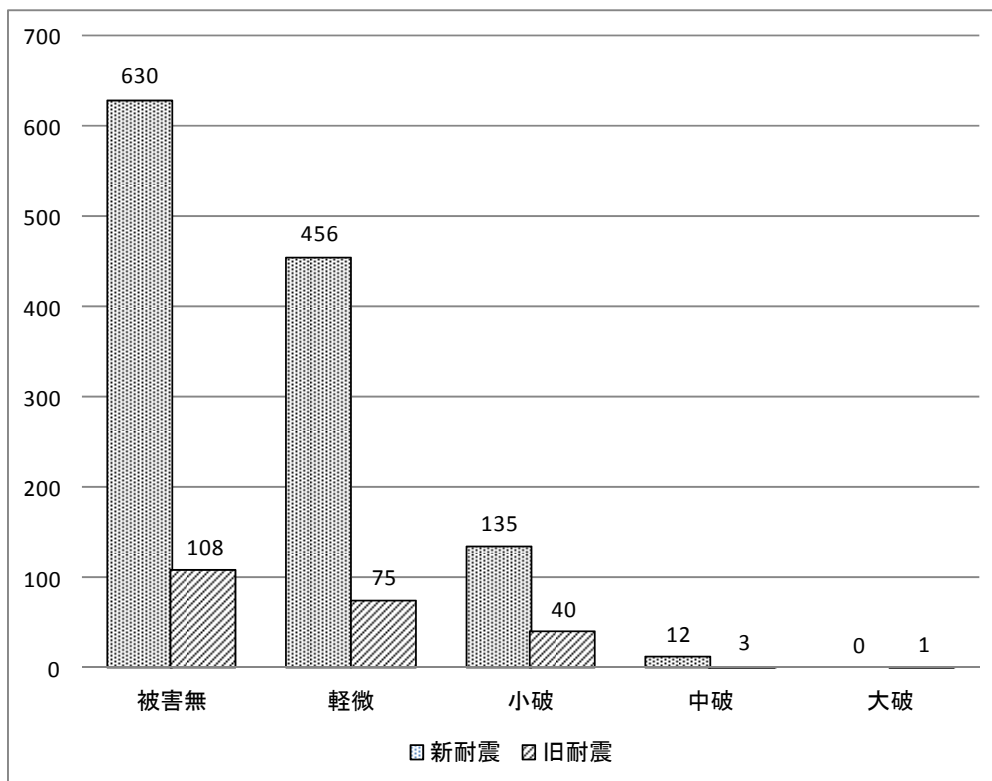
1. 東日本大震災 宮城県 2011.03.11

	被害無	軽微	小破	中破	大破	合計
新耐震	630	456	135	12	0	1,233
旧耐震	108	75	40	3	1	227
計	738	531	175	15	1	1,460

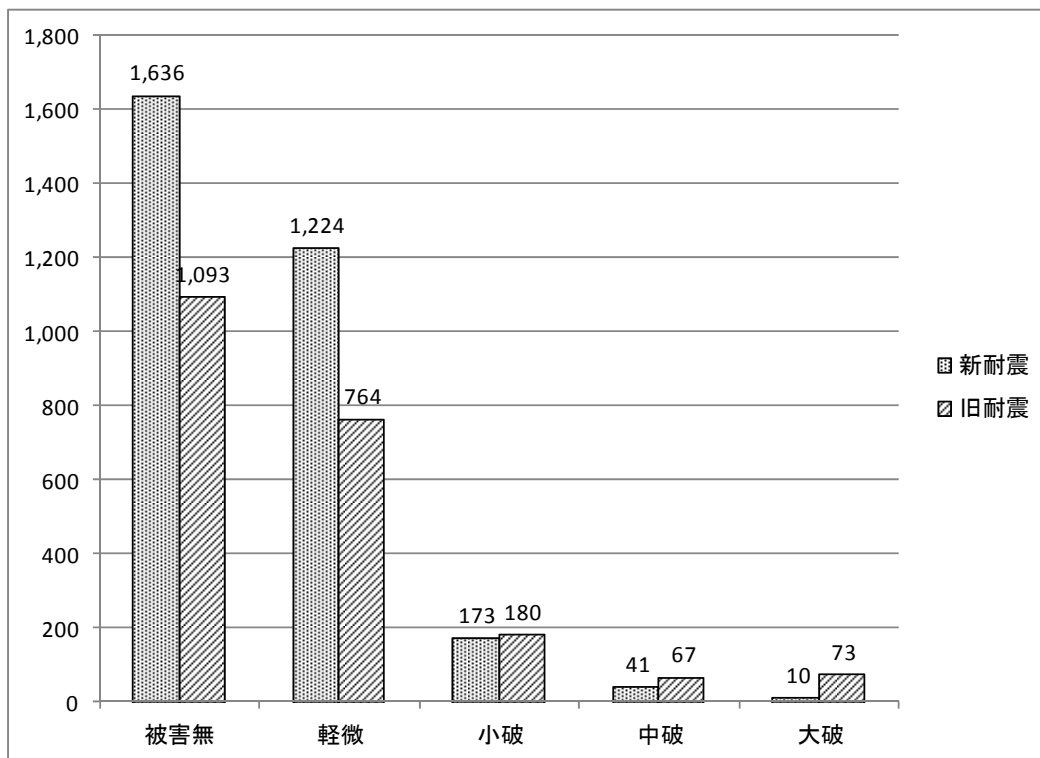
2. 阪神・淡路大震災 兵庫県 1995.01.17

	被害無	軽微	小破	中破	大破	合計
新耐震	1,636	1,224	173	41	10	3,084
旧耐震	1,093	764	180	67	73	2,177
計	2,729	1,988	353	108	83	5,261

1. 東日本大震災 宮城県のマンション(2011. 3. 11)

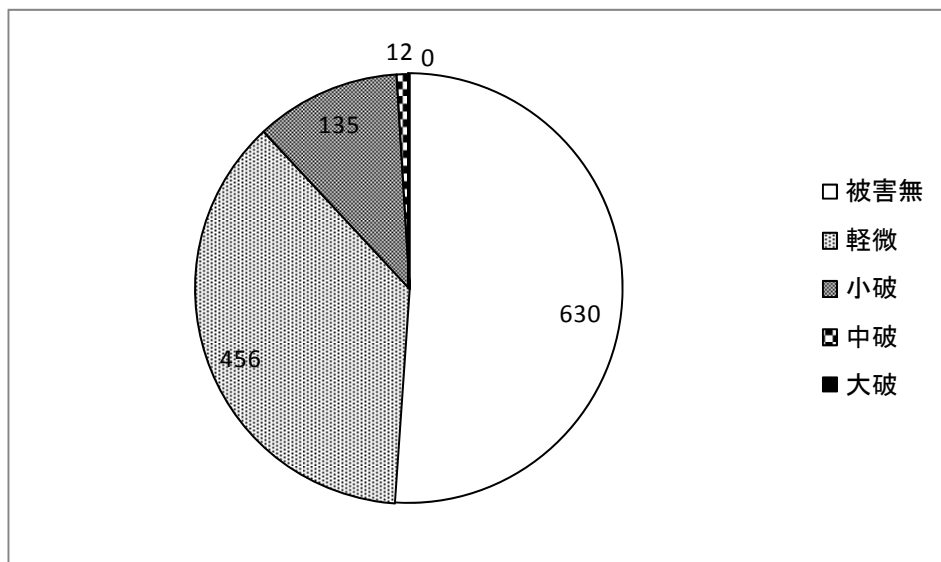


2. 阪神淡路大震災 兵庫県のマンション(1995. 1. 17)

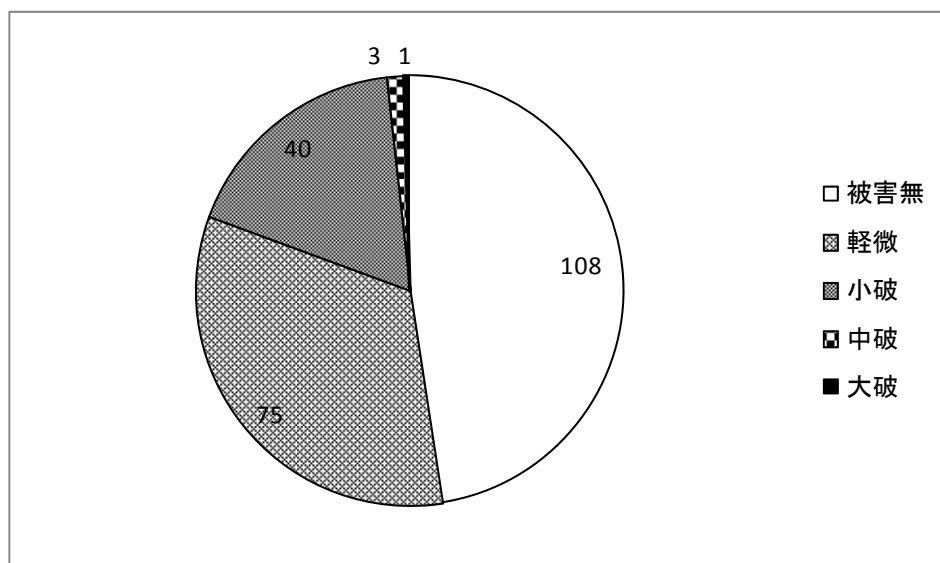


1. 東日本大震災 宮城県 2011.03.11 (震度5弱～6強)

(1) 新耐震マンション (1981年6月1日以降に建築確認済となったもの)



(2) 旧耐震マンション (1981年5月31日以前に建築確認済となったもの)



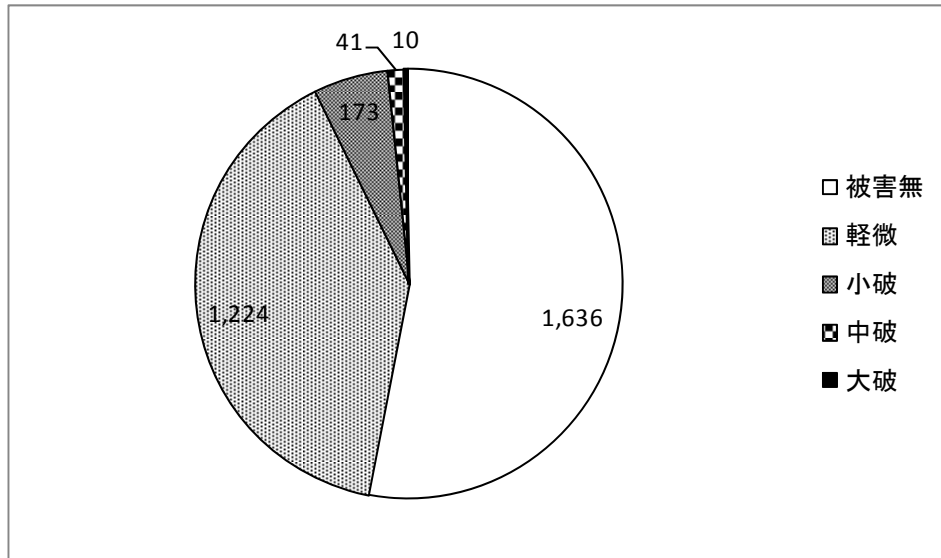
東京カンテイのコメントによれば「マンションの震災被害の度合いは、耐震基準よりも土地・地盤との相関性が高いと考えられる」(マンション管理新聞記事より。以下同様)

震度6弱の青葉区(米ヶ袋・上杉)では、被害無の割合が7割。新旧耐震基準でも差がなかった。同じ震度6弱の泉区(八乙女)では、軟弱地盤のため被害無は約13%で、約6割は小破～中破。

阪神・淡路大震災との違いは、東日本大震災が横揺れ中心だったのに比べて、阪神では直下型であったことと推測。

2. 阪神・淡路大震災 兵庫県 1995.01.17

(1) 新耐震マンション（1981年6月1日以降に建築確認済となったもの）



(2) 旧耐震マンション（1981年5月31日以前に建築確認済となったもの）

